

平成 28 年度第 1 回大河原町地域公共交通協議会【議事録（概要）】

■日時：平成 28 年 6 月 9 日（木）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで

■場所：大河原町役場大会議室

○出席者

委員：23 名（欠席者 2 名）

事務局：3 名（企画財政課：佐藤公、長谷川一正、蜂谷朋香）

【事前説明等】

① 出席委員が協議会設置規則第 6 条第 2 項で規定する半数以上出席しているため成立していること。

（欠席連絡 2 名：山家清治委員、大槻真紀委員）

② 第 6 条第 4 項の規定により公開しており傍聴人がいること。

《委員委嘱上交付、委員及び事務局の紹介》

（前）村上幹夫⇒（新）小荒井太一＝住民（大河原町区長会副区長）

（前）渡邊典子⇒（新）坂本 一＝特定非営利活動法人ほっとあい理事長

（前）緑 正義⇒（新）大槻 隆＝大河原警察署交通課長

（前）田崎和裕⇒（新）柳沼久喜＝宮城県大河原土木事務所技術次長（企画担当）

異動による町職員委員の紹介

（前）小形 治⇒（新）二瓶武志＝健康福祉課長

（前）遠藤和彦⇒（新）木村淳一＝商工観光課長

（前）吉野健一⇒（新）鈴木邦弘＝子ども家庭課長

※事務局職員紹介

司 会：それでは、只今より大河原町地域公共交通協議会を開催します。

町長（議長）挨拶：

どうも皆さん改めましてこんにちは。本日はお忙しいところ、またお足元の悪い中ご参集たまわりまして心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。デマンドタクシーも 3 年が経ちまして町民にとって大変役に立っております。特に高齢者や障がい者にとってはほんとにすばらしいものになっているのではないかという風に考えておりました。そういった意味で委員の皆様にはデマンドタクシーの運営にあたりまして多大のご協力を賜っておりますことを改めて感謝を申し上げたいと思っております。また昨年の協議会でキャンセルが増えているとか、一日の乗車人数が減っているとか、2 年前は約 1.5 人だったんですけど 27 年度は 1.2 人まで下がっていると、あるいは経理の問題についていろいろご指摘を受けました。それを受けまして運行委員会、小委員会できろいろおさえていただいております。今日はその辺の報告も含めながら今後のより良いデマンドタクシーの運営について、皆様のご忌憚のない意見を拝聴できればありがたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願い致します。

【議事】

司 会 それでは、議事に入ります。協議会設置規則第 6 条により、会長が議長となります。

議 長：それでは、暫時議長を務めさせていただきます。次第に則りまして、まず 2. 報告 (1) 平成 27 年度利

用実績について事務局より説明をお願いします。

事務局：それでは、事務局蜂谷と申します。次第と資料に沿いましてご説明をさせていただきます。

《資料1、2に沿って説明》

議長：只今の報告につきまして、皆様のほうからご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

委員：1台あたりの乗車率は1.2人ということですね。これはタクシーとほとんど変わりません。あとは資料4で特定の人たちの利用になっており、税金を多額に投入しているのに特定の人になっていることに問題があるかと思えます。

広告収入の件はどうなってますか。柴田と角田市では実施しているようです。

事務局：広告については、委託している大河原町商工会にも検討させて頂いておりますが、まだ進めていないという状況です。

議長：これから検討するようにしたいと思いますのでご理解賜りたいと思います。ほかにございませんか。

委員：資料1の登録者数・世帯数で、これは大河原全体の何%になっているかを出していただかないと登録者数・世帯の推移を判断できない。

もう一点は利用者数の延べが14,000で運行日数が183とありますが、往復で利用されてる人数も含めてこの延べ数でしょうか。そうであれば純粋な利用率がぐっと下がる計算になるのかと。

商店街の利用者が伸び悩んでいるという部分で商店街とタイアップしながらデマンドの利用を向上させていくという回答を頂いています。ところが伸びていない。であれば商店街とのタイアップが進んでいるのかどうか。

事務局：登録者数については23,800人ほどの町の人口の中でその割合という形になると思いますが、登録者数も当初から登録された方が、現在も利用しているかあるいは転出しているか、お亡くなりになっているか入院しているか、こちらで確認していない部分があり、現実的にはこの人数ではないというのが正直なところでございます。登録世帯数も9,300~9,400の中の世帯数となりますが、その割合で活用されてる世帯数を計算していきたいと思っております。

議長：往復を含めた場合の利用率がもっと下がるというのがありますが、これは統計のとりかたですか。

事務局：そうです。単純に、利用者から日数を割り引いた形でございまして、実際には行くだけの方、また帰るだけの方いらっしゃいますが、その部分で総人数を足したうえでの日数の割り方という形でしかだしておりません。

最後に、商店街とのタイアップということで、デマンドが始まる際に商店街との関係性を持ってということでもございましたが、商店街以外の所の目的地が多くなっており、その部分で商店街とのタイアップは進んでいない状況でございます。

議長：よろしいでしょうか。ほかにございましたらお願いいたします。

委員：予約センター賃貸料が20万。これは我々からの感覚すると部屋を借りるのに10万1か月っていうのはどうかなっていう気がする。

事務局：資料2の予約センター賃借料につきまして、やはり高いということで昨年も出された意見でございました。これは駅前ビルオーガのフロア賃料が高いということで、支出を削減としていく方向に、家主さんと商工会のほうで交渉していただき、平成28年度4月から17万円で進められるようになりました。

委員：経費節減の行動をとってもらって、より良いものにしていただけないと何のために協議会をやっているのか分からない。

議長：ご意見としてしっかり受け止めて参りたいと思います。

それでは報告事項、これで終わらせていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。続きまして、第3番目の協議事項、まず1点目が運行上の課題について事務局より説明をお願いいたします。

事務局：《資料3に沿って説明》

議長：ただいまの説明についてご質問などがありましたらお願いいたします。

委員：運行上の課題として、予約キャンセルが増加している状況について、私の基本的な考え方としてはこれが乗合・公的であるという風なものになっていない、要するに他人のことを考えず私的なものになっているのが原因だと思っています。対策としては前回も出たように30分単位というのが問題だと思う。それが柴田町ですと3～4人がゆっくり乗られて、時間も気にせず乗られていると。

議長：事務局お願い致します。

事務局：昨年度も30分単位で1.2名～1.4名と少なく、1時間単位の話になりました。ただ、1時間単位にした際の踏み切れない部分があり、やはり5キロ四方の町での1時間単位での乗合という展開の仕方、また、ほかの市町村にない通勤・通学にも活用して良いという内容の仕方、その部分がこちらでも整理できず、現在の30分単位を1時間にというのがなかなか難しいかと。

また、30分単位ですと、一番先に乗った方が現在のところ15分～20分の乗車時間ですが、1時間単位ですと、一番先の方がやはり40分～50分の乗車時間になります。乗合では基本の話なんですが、大河原町ではすでに短い乗車時間で運行しておりますので、1時間単位にした場合にどのようなサービス低下と受けとられるかどうかという悩みもございまして、今のところ30分とさせていただいている所でございます。

議長：いかがでしょうか。

委員：やっぱり税金を投入した公的なものですから、1時間単位に延長して多くの人が利用できるように乗合にすべきものだと思います、それが長く続くことになり、キャンセルも少なくなると思います。

議長：ただいまのご意見について、もう一度検討するという事でよろしいですか。

委員：キャンセルがこんなに多くなって驚いています。一つ考えられるのはなかなか予約が取れないので、とりあえず予約をしておこうというのが現実にあるのではないかという気が致します。

それから、30分単位ではなかなか難しいと私も感じます。同時に運行台数、午前中4台、昼2台、そのあと3台といますけど、お医者さんにいく医療関係ってのは多いんです。いったら帰ってこなきゃいけないのに往きも帰りも予約はできないんですね。何時頃か分からないから。それでお医者さん終わって電話すると2時間とかっていう待ち時間になる。行ったら必ず帰ってこなくちゃいけないんだから何とかしてくれって話が多いんです。午前中4台で、お医者さん終わって一番帰る時間帯に2台っていったら、絶対に溢れてくるのは当たり前だと思うんです。

デマンドから離れていく人すでにいるんですよ。一生懸命バスを走らせる会で頑張ってるって、やっと乗られるっていうんで乗ってはみたけども、電話かけたけどもさっぱり来てくれない、もうやめたっていう人、片手くらいは。一生懸命ほんとに頑張ってる人たちがデマンド離れていきますか諦めたっていいですか、そういう人たちがいることもここで報告しておきたいと思います。

議長：ありがとうございます。タクシー業界で実車率でいったらどれぐらいになるのでしょうか。というのは1.2人というのは例えば、30分運行している一部でも乗っていれば1とカウントしますよね。実車率というのは運行している時間の間どれくらい乗っているかですからタクシーより少ないと公共交通機関とはなかなか難しいと思うんで。

委員：1台あたり何人乗ったかということですよ。やっぱり1人ちょっとですね。正直いいまして30分単位の乗合ですとタクシーと変わりません。予約した安価なタクシーを公的にやっていると私たちは認識しています。ですから是非とも乗合にしていきたい。

議長：乗合になるように工夫しろというご意見でございます。そのほかご意見ありましたらお伺いしたいと思います。どうぞ。

委員：運行前にもお話したとおり、当初運行するときの予算収入がこれだけ利用を見込んでますよ、と。絶対こんな数字にはなりませんよねとご指摘をさせて頂いても、結果その数字がそのままできています。それでも運行したいということで、商店街とタイアップしこの数字まで押し上げるという当時の事務局案でした。結果として今やってませんということです。やってないということはそこに税金が投入されるわけで。市民県民の税金をただ使っているという風にしか私はみてません。運行する前からその話は言っていて、その時に、走り出したら早期にも商店街とタイアップして、商店街の一角にバスプールを作って、そこにお客さんが休めて、そこから待合の時間が憩いの場になるようなそんな町づくりを作るという理想的な話を頂きましたけど、この状況になっている。私は非常に無責任な町だと思っています。それは税金っていう感覚を失っているからこそ、こういうことできるんですよ。ましてや輸送人員が延べで1.何人って計算でやったら一般企業であれば到底倒産してます。そういう観点にたっていただきたい。

課題としては輸送人員が上がってこない、あるいはキャンセルが多い。キャンセルの統計で利用頻度が高いところが、すごくキャンセル率が高いとか、そういう見方もしていない。その時点でまったくもってやる気というか、改善しようっていう気にはなっていないんですよ。ただ、キャンセルが多い、その根底の理由は一体何かっていうのを突き止めていない。じゃあ対策としてアンケートとりますかって。アンケートしたならじゃあ危機管理を持って。お客様はキャンセルしようがしまいがそれはお客様の勝手、なんですよ。それをどう自治体が誘導していくか、そういう政策を打ち出すかということだと思っています。病院が混むんであれば病院とタイアップしながらどういう政策を打ち出せるか、それは同じ時間帯が

混むのであれば同じ時間帯をずらせるような診察の制度であったりとか、そういうことを町としてやらなきゃ何もならないですよ。あるいは商店街の部分であれば月・火は商店街のセールやってくださいよ。時間をずらしてタイムセールとかね、そういうのを事前にお客様に対して提示して利用頻度の低いところを埋めていく、そういう政策がなければこんなことをやってもまったく意味を成さないと私は思っています。

そうはいつでも、業者の皆さんが30分は厳しいんですよ。30分の運行をさせるくらいの補償をしてあげないとだめですよ。補償をするために利用頻度をあげるっていう根底にまったく立っていないのはもう残念なところで。どうしても個人で輸送してた部分が、デマンドで輸送されるっていうリスクを背負いますから。運転手さんは、やめざるを得ないっていう状況になってるっていうのを、今宮城県で数年後にやっているんですよ。やっぱりだめだったところを最初に調査して、そこを改善してご提起していただければ良かったんですけども、全然そこがなかったものですから結果的にこの状況になっていると私は思っています。ですので、ここに書いてある資料3のことをやっても何の意味もありませんし、あるいは利用者様に対してリスクを背負わせるということ自体が、ますます先細りを冗長するそんな施策なんだろうなと思っています。ぜひ観点を変えて、専門分野の方あるいは餅屋であるそれぞれ一般でやってる業者さんのほうから知恵を貸していただくなりして、施策の転換を狙ったほうがよろしいかと思います。以上です。

議長：いろいろご意見が出まして、わたくし感想を申し上げますと、運行時間を長くすると利用率が下がるということを心配するあまり、変えないという方向に小委員会で結論致したところですけど、利用者代表の委員のほうからそれはやぶさかではないというご自身の発言もございました。そこでもう一度やっぱりこれは検討してはどうかと思いましたので。その辺も含めて何かございましたら。

事務局：30分か1時間にするかについては、あくまでもこの場で最終的には決定をするんだと思います。町のほうで1時間にしますといっても、利用する方々が、いや、今までどおり30分が良いという形があるかもしれませんし、運行なさっている方がそれでは厳しいので1時間、という形になるかもしれません。この中でですね、ある程度方向性を出していただき、それについて、また小委員会なり別なところで協議したいと思います。皆様のほうから忌憚のないご意見を頂いて、それで進めていただきたいと事務局としては考えています。

議長：この場で結論はできませんので、もう一回小委員会やりたいということですが、小委員会のメンバーはどのようになっていますか。専門家の方や餅屋の方に聞けという話がありましたので。

事務局：メンバーにつきましては、運行されている会社の方、運行している委託先、あと役場という形です。その中で色々揉んでおきますけれども、なかなか結論的に出せない部分もありますので、せっかく皆さんがお集まりいただいておりますので、利用されている方のご意見なり、そのほか交通事業者関係の皆様から、こういうことで1時間のほうが良い、いや現状のほうが良いといったご意見をいただかないと、小委員会の中でもなかなか方向性を見いだせないかもしれませんのでよろしくお願いいたします。

議長：わかりました。ということで、しばらくこの議論を続けたいと思いますので、皆様のほうからご意見をいただきたいと思います。

委員：先ほど登録者数についての説明で、この中ですでに亡くなられている方も、入院されてる方もいるかも

しれないということですが、実際に利用されてる方の実人数的なものは把握されているのでしょうか。もう一つは実際に利用している方々の利用頻度、キャンセルの頻度といった記録があるのかどうか。それが分かれば、キャンセルが大量発生は特定の方の利用の仕方に問題があると把握できるのかなと。そうであれば特にアンケートとか広報使った呼びかけっていうものは必要ではなくて、個人的な働きかけで問題は解決するのではないのかなと思うんですけども。

議長：事務局をお願いします。

事務局：まず登録者数 3,384 人という形になってございます。個人情報を取らない、うちの企画財政課では死亡・転出といった情報はまったく入りませんので、この登録者数よりかなり少なくなっていると思いますが、こちらでは把握がしづらいというのがあります。

実人数・利用頻度・キャンセル者の特定については、配車センターやシステムから分かるはずでございます。

現実的に特定の方がキャンセルしている場合もございます。例えば、健常者ではない方が、どうしても朝、体調が急に悪くなるという方もいらっしゃいます。そういう方以外にも忘れている人とかもおりますが、どうしても体調不良という形の部分が一番多かったんですけども。その場合はなかなか工夫どうのこうのとはできないのかなと思っています。それ以外の忘れている方とかに対してフォローをしたいということで強めのチラシを出したいと思っていたところでございます。

議長：よろしいでしょうか。

委員：実際公共性がどれだけ確保されているのか。特定の方が集中的に予約をして抑えてしまっているという傾向が見えないのかとか利用の傾向の分析がなされていれば、もう少し問題は深刻化しないで済むのかなと思うんですけど。そういった分析はされていないということですか。

事務局：利用頻度や利用実数はわかりますので、特定の方が、年間百何十日間ずっと使っているというのは事実でございますが、そういう方がいないと、なかなか成り立たないと思っています。

そういう風な対応も今後していきたいと思っておりますので、そちらのほうについてはよろしく願いしたいと思っております。

議長：利用のあり方について、しっかり対応していきたいと思っております。今、運行時間について議論したいと思っております。それについて。運行時間について集中審議したいと思っております。

委員：時間のことは小委員会では決められない。ここでやっと公共交通協議会を開催してここで決められない。また小委員会に持って行くと、堂々巡りが続く。実際に、この事業が始まってから、調べていただければ分かるんですけど我々の業界の業績は非常に悪化しているのでなんとか進めていただかないと。何のために仕事をして納税をしているのか分かりませんので、話が進むような形にどうかここで道筋をつけていただきたいというのが、業界の切なる願いです。

議長：堂々巡りという話がありましたので、私から申し上げたいのが、餅屋という表現があった通りですね。この運営小委員会ではなくて運行時間専門委員会みたいなものを設けていただいてしっかり議論をするというのが大事だと思うんですけど、皆さんいかがでしょうか。

委員：そもそもですね。小委員会で話されている内容が、ここで参席している方で内容が分かっていないですよ。30分なのか1時間なのかっていう根底が分からないから、ああだこうだって言えないですよ。オープンでないってことですよ。であればやっぱりオープンにしてください。

単純に企業様が1時間で走らないとどういこの予算のなかでは運行できませんよっていう理由がそれぞれあるのかなって風には思っています。利用者様は思いついたらデマンドがあればいいというのが利用者様だと思っています。じゃあそれを1時間に延ばすっていったらそりゃ利用者の立場からいけば、そんなの反してるよってことになると思うんです。でもそのつながりが何の理由でそういう目的をもって主張しているのかが分からないのに、はい賛成、反対ですとはなっていないので、オープンにできることであればオープンにして、それをどういうメンバーで議論するかはおまかせしますが、ぜひそういうオープンな議論をしていただきたいと思います。

議長：ありがとうございました。事務局何かありましたら。

事務局：はい。小委員会のほうの議事録等々、今度出させていただきますので、事前に配布させていただいてそれを見ていただければという風に思います。極端なことを言いますと、小委員会のほうに傍聴に来ていただいても結構かと思えます。その中でどういう風な話し合いをされているか聴いていただければ。あとは議事録、ちょっと年に何回も開いているわけではないので何とも言えないですけど、それは十分出させていただいて協議の材料とさせていただきますれば幸いです。

委員：せっかくですから宮城運輸支局の今泉さんがいらしておりますので、デマンドというものがどういうものかお伺いしたいんですけども。

委員：宮城運輸支局の今泉と申します。私も昨年の4月に異動してきて、大河原町内でのデマンドシステム全て把握しているわけではないので、具体的なことは申し上げられないんですけども。デマンドというのは、高齢化して、本来ですとバス等でこれまで運行してきたわけですけども、大きなバスが空の状態で行っているということで、私の記憶ですと福島県の小高地区でNTTのシステムを活用して大分昔に始まったという。これはデマンド方式ということで自宅のほうに迎えにいったりして直接、途中利用される方を拾って目的地までダイレクトに運ぶという非常に便利なシステムなんですけれども、ここで問題になっているようにせっかく利用したくてもいっぱい乗れないとか、またキャンセルとか、そのへんをどうやって解決するかということは、やっぱりこういう会議の場でシステム上こういう風に運行してますとか、そういったものを皆さんにお配りして。特に私なんか仙台のほうで仕事してましてこちらには通う際にしか来れないので、地域の実情っていうのがなかなか把握できないというのが実情でございます。ほかの委員の方もそういった方もいらっしゃるかと思います。実際に利用されてる方の意見をもう少し吸い上げて、実際に委員会のほうでも利用者なんか混ざっていただいて、議論していただければと思います。

議長：貴重なご意見ありがとうございました。もう一度じっくりですね、検討するというので、先ほど専門会議みたいなものを提唱したんですけども、そういったことをやるという方向で事務局よろしいですか、もう一度検討するというので。

事務局：検討するのは当然、事務局なので検討致します。ただ方向性的に1時間でいいのか30分でいいのかという皆様のご意見の検討材料が必要かと思えます。今日すぐになかなか出せないという部分があるかと思

いますので、後日でも結構ですのでこういう風にして欲しいとか、これで大丈夫ですとか意見をいただきながらでないと、私のほうでもどちらの方向にいったらよいのか、利用される方、運行される方両方ありますのでそのへん教えていただければと思います。

議長：その意味で、今までの小委員会とは違うメンバーで専門家会議といますか。

委員：判断する材料として、これまで小委員会で話した議事録を各委のほうに再度周知していただいて、その上でこういう議論を経てきましたよと。それにたつて30分がいいのか1時間がいいのかという委員の判断の賛否をとればよろしいんじゃないでしょうか。

議長：まず議事録を配布するのはいいですか。

事務局：結構です。

議長：その上でですね、個別に意見を聞くのではなく、何人か、やっぱりあの全体会議大事なので、専門部会でも開いていただいて、メンバーについては任していただいて、住民代表もしっかり入っていただいて議論したうえで、またこの協議会で報告を出すよと。そういう手順を踏ませていただければと思いますけど、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

委員：利用の仕方なんですけど、ある時、こういうことがあったんです。家の人にボランティア先まで送ってもらってるんですけど、たまたま歩いて帰らなきゃならない。足腰弱くなってるもんでデマンドさんに乗るボランティア先の所員がいましたので、一緒に乗せていってね途中だから、とこう言ったんです。そしたら「電話で頼んでください、電話で頼まなければダメなんです」。すったもんだいったんですけど、でも私、券もあるし乗せてって途中だからと。ダメだっていうんで一人で乗っていったんです。あれ、デマンドタクシーって同じ方向に行くのに乗せてもらえないのかと。でもそれも電話で頼まなかったから駄目だって言われればそれまでなんですけれど。だから利用の仕方について、30分置きになると大変都合が良いなと思ったんです。利用している人の話を聞いてのことで私が感じたことを申しのべました。

第二点は、私も色々な人とお付き合いしてて、デマンドさん利用しないのと言ったら、デマンドさんを利用したくて電話するんだけどなかなか上手くいかない、今日はそちらの方面に行きませんから今日は駄目です、と言われたと。え、そういうこともあるのと。そういう声も聴いてきましたので質問事項として声を出しました。

議長：はい。それも30分でなければ解決する可能性があるんです。というのは、例えば2人予約して何か所かいくわけですよ。そうすると3人目はもうきついというルートになってしまう。30分だから。60分にするともう一人乗つけられるということがある。ルートが決まっているから乗つけられない。そういうことを今後検討すべきではないかと。乗れる人は30分でいけるからいいですけど、乗れない人のことを考えると60分のほうが良いと、なるべくたくさん乗れるために。そういった議論で大変難しい問題になりますけど。

議長：ほかにございますか。ではなければ協議事項1はよろしいでしょうか。ありがとうございました。続きまして2の利用者アンケートの実施について、事務局よりお願いします。

事務局：それでは、(2)の利用者アンケートの実施について、資料4をご覧ください。全体での協議事項等を踏まえまして、アンケートをさせて頂きたいと思っております。前回もさせて頂いているアンケートの内容になってございます。ただこちらは乗車した方にお配りして、実際に利用している方の意見をお聞きするものとなっております。

事務局：先ほどの協議の中で、30分がいいのか1時間がいいのかについて、設問を考えなければならないんですけど、例えばキャンセルが多くなって乗れない方もいっぱいいるから1時間にしたほうがいいのかという条件、また30分ならこういう風な条件というような形のアンケートをとれるかもしれないんですが、そういう風なアンケートもこの中にいれてとればと今事務局で考えたんですが、この辺について皆様のご意見もあわせていただければと思います。以上です。

委員：賛成です。

議長：ありがとうございます。30分か60分か利用者のご意見を聞くと。ただ判断が難しいので説明があったとおり、30分だったらこうです、60分だったらこうですとメリットデメリットをあげながらですね、設問をしていきたいということで、ご賛同いただけるでしょうか。

委員：1点よろしいですか。キャンセルがあって、乗りこぼしがものすごく出てくるってことですか。満車の状況でキャンセルが続いているのか、空車でキャンセルが続いているのか、どっちなのかっていうその分析をはっきりしていかないと。その違いってすごく大きいのでちゃんと分析していただけてください。

議長：重要なお指摘ありがとうございます。ほかにご意見ありませんか。はいお願いします。

委員：利用者の方にご意見聞いても、役場のほうで恐れているように利便性が悪くなることを望まないもので30分という意見しかでてこないと思うんです。すでに言われたようにデマンド離れがおきてるので、もっと広い方たちにアンケートをとって乗りやすくなりますよという周知をして幅広いアンケートをとっていただかないと。

委員：利用者側に対するアンケートになって、広がりが無い。うんと利用してもらおう、キャンセル少なくしよう、予約も確実に受け付けましょうと、そういう方向じゃないとダメだと思うんです。もしこういう風だったら私も俺もデマンド利用してみたい、そういう風なことにつながるようなアンケートを考えていただければと。だから利用者だけじゃなくて、利用者になりうる人たちにもですね、アンケートをとって全体をつかんでいくという中身にしていだけたら。

議長：そうですね、改めてデマンドタクシーの存在もPRする機会になるということで。幅広くアンケートを。事務局大丈夫ですか。はい。貴重なご意見皆さんありがとうございます。そのほかありましたら。

委員：素人判断なのですけれども、例えば、最初からキャンセルがあるんだと見込んで、運行されては。当日・前日予約されたらもう全部受けるんだという形の行動はとれないものではないでしょうか。

今聞くと、一人しか乗ってないという状況のようですから。長いことやられているわけですからそういうことも読めるんじゃないでしょうか。素人判断なんですけれどもいかがでしょうか。

委員：私運行もやります。予約したことすら忘れて悪気はほんとに何にもないんです。悪気のないキャンセルってのもいっぱいある、それも高齢化社会なのでどうしようもないんですけど。

キャンセルが出るの見越してお客さんをとるってのもちょっと難しいと思います。端から端までいくと大河原でも広いので、法定速度ってありますのでそれはちょっと馴染まないと感じます。

議長：はい、どうぞ。

委員：病院に行って帰りに足がなくなってどうしようかなと思って普通のタクシー使ったり、2時間くらいかけて歩いてきたなというのを聞いて。30分よりも、多少待ち時間が長くても確実に乗れる1時間のほうが利用者の方も納得できるんでないかと、個人的に私は思います。

議長：素晴らしいご意見ありがとうございました。

委員：今のユーザーから反発は出ます。専門で運行やってる者も、百数十人以上、顔が分からないといっている。ものすごいヘビーユーザーが使ってるので。登録人数の5%利用しているかどうか非常に疑問です。役所は責任を持って情報は開示していただきたいと思います。

事務局：整理させていただきたいんですけど、基本的にアンケートは利用者の方にもとらせていただきます。と同時に広くですね、利用されていない方に対してもこれと違うアンケートの中身になるかと思いますが、今皆さんからいただいた意見についてアンケートをまとめて、それを小委員会プラス住民の方とか色々な方を交えてどのような方向に持っていくか協議し進めさせていただきたい。

議長：そうですね。税金を大事に使えという観点からも、より公共性の高い交通機関にするということで、それを利用者にも分かってもらわないと前に進まないと思いますので上手くまとめてアンケートをとってもらえたらと思います。ほかにご意見ございませんか。ないようでしたので。その他、事務局ございませんか。

事務局：その他については特段ございません。

議長：ありがとうございます。予定しておりました協議事項、全部終わりましたので議長の任を解かせていただきます。スムーズな進行と活発なご意見本当にありがとうございました。

事務局：以上、ほかに何もございませんようでしたら本日の大河原町地域公共交通協議会を閉めさせていただきます。ありがとうございます。